



新口美風さん

香川県出身
製紙原料の販売や不織布の加工などを行う会社で、営業業務などを担当。
趣味はオンラインゲーム

(株)本田洋行

石村菜々美さん

下柏町出身
実家の箔押し専門店で、デザインや商品企画などを担当。
趣味は野球観戦

石村箔押店



田原れみさん

長崎県出身
マスキングテープなどを製造する会社で、商品企画などを担当。
趣味は文具集め

カミイソ産商(株)

上杉万葉さん

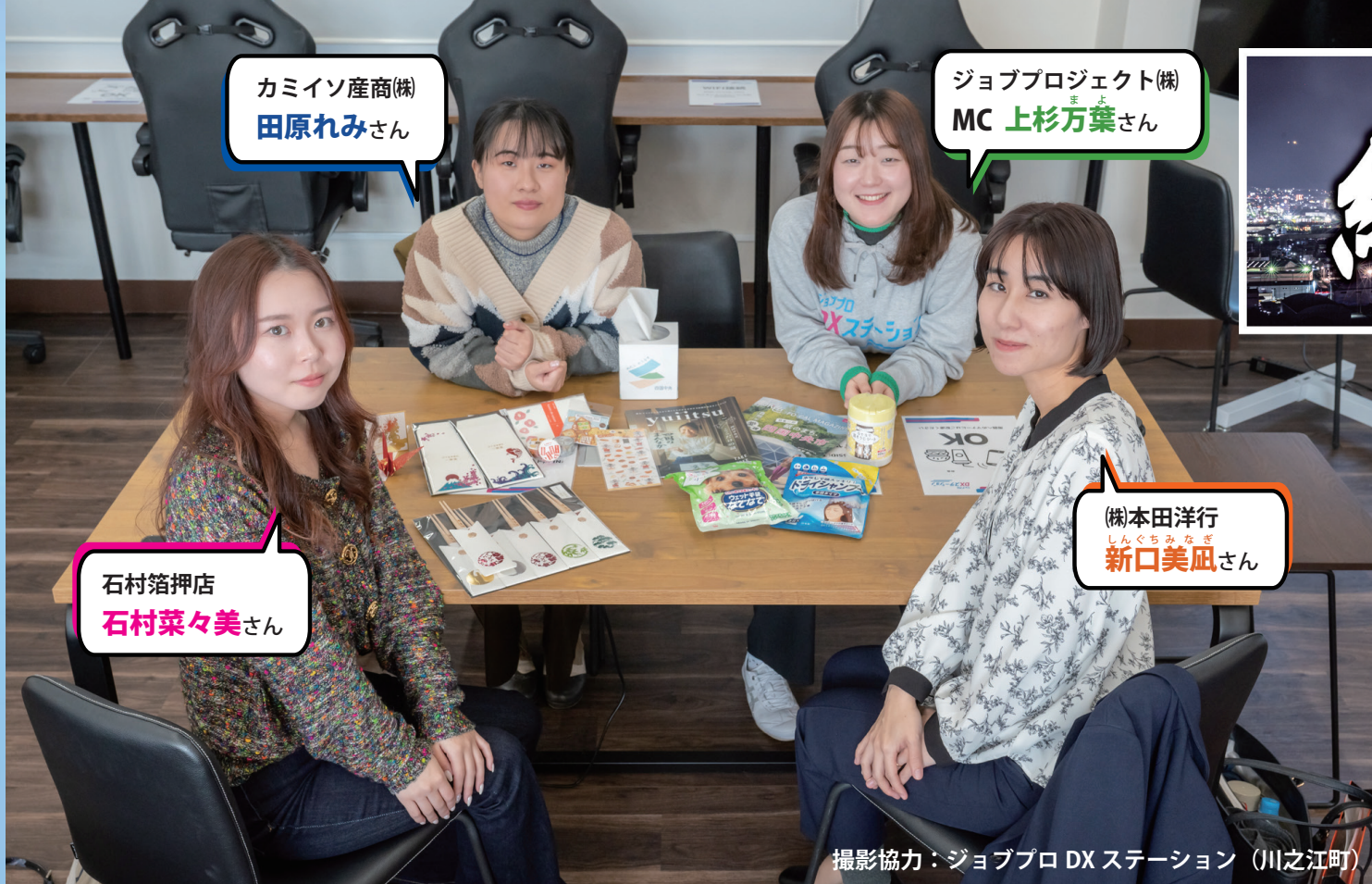
東京都出身
事業開発や DX 推進を提供する会社で、ネットショップの運営支援などを担当。
趣味は温泉巡り

ジョブプロジェクト(株)



カミイソ産商(株)
田原れみさん

ジョブプロジェクト(株)
MC 上杉万葉さん



石村箔押店
石村菜々美さん

(株)本田洋行
しんぐちみなぎ
新口美風さん

撮影協力：ジョブプロ DX ステーション（川之江町）



紙ンデレラトーク

それは「日本一の紙のまち」四国中央市の紙関連企業で働く女性が、「紙のまち」そして「紙のまちで働くこと」の魅力や素晴らしさを伝える新企画です。今回は、市内紙関連企業から3人に集まっていただき、それぞれの目線で「紙のまち」について語ってもらいました。



自己紹介

上杉万葉です。この9月に四国中央市に移住してきたばかりなので、今日はみなさんに、このまちのことを教えていただきました。

新口美風です。私も1年半前に夫の転勤で四国中央市に引っ越してきました。製紙原料の販売や不織布の加工などをする会社で、海外から資材を買い付ける仕事をしています。出身は隣の観音寺市です。

石村菜々美です。県内の大学を卒業後、県外の専門学校でデザインを学んで、5年前に地元に戻ってきました。実家の箔押し専門店ではデザインや商品企画、営業などを行っています。

田原れみです。マスキングテープなどを製造する会社で、文具女子博などのイベントに陳列する商品を選定したり、ディスプレイを考えたりする仕事をしています。入社2年目で、長崎県出身です。

上杉 長崎の人がなぜ愛媛に？
田原 子どもの頃から文具が好きで、好きなことを仕事にしたいと思ってたところ、自分が持っているマスキングテープが四国中央市で作られていることを知りました。実は、小学校から大学まで書道をしていて、書道パフォーマンズ甲子園を見に来たこともあります。
上杉 まさに運命ですね。

どこできますか？」と、ある会社と相談したときに「うちの機械では無理だけど、できることを知ってるから紹介するよ」と、同業他社につないでくれたりします。この関係性が理由かもしれません。

ここがすごいよ四国中央

上杉 四国中央市の自慢を教えてください。

石村 よく「四国4県の県庁所在地に1時間で行ける」と言われますが、実は、大都市へのアクセスも良いんです。私は、野球観戦が趣味なのですが、京セラドーム（大阪府）でプロ野球



自己紹介は自社紹介へ。テーブルに各社の製品が集まった

私たちと紙のまち

上杉 四国中央市は「日本一の紙のまち」と聞きました。街中に大きな工場がたくさんあるので、働いている人も男性が多いのかなと思うのですが、実際のところどうなんですか？

新口 意外とそんなことはなくて、弊社でいうと男女比率は半々ですね。ただ、女性は製造部署に多く、商品企画の部署は男性しかいません。そのため、女性向けの製品を開発するときなどは、直接の担当ではない私も会議に出席します。頼りにしていたらいいのはうれしいのですが、価格や機能性で勝負したいという男性陣に、感性や感情で商品を選択する女性の購買心理を理解してもらうのは大変です。

全員 なるほど。
新口 今、すごく仲間が欲しいなと思っています。
全員 (笑)
上杉 それにしても、なぜこん

のナイターを観戦しても、始発で帰ってきて仕事ができる距離なんです。

全員 (笑)
新口 でも、確かに出張しやすいですよ。大阪にしても東京にしても。

石村 出張といえば、首都圏の人たちは、「愛媛」や「香川」ではなく、「四国」という単位で認識していることが多いので、「四国中央市から来ました」と言うと、「四国の真ん中なんだね」と、すぐに場所を理解してくれます。あと、食べ物がおいしい。肉も魚も野菜も。

上杉 この前、伊予美人の「蒸しあげ雑炊」を初めて食べたんです。感動してすぐにレシピを調べました。



蒸しあげ雑炊へのアツイ思いを語る上杉さん

紙のまちのこれから

上杉 今後の四国中央市に期待することはありますか？
石村 これからも「日本一の紙のまち」であってほしいです。



自分がロールモデルになって、仲間を増やしたいと話す新口さん

なにも紙産業が発展したのでしょうか。
石村 四国中央市は、原料の調達から原紙の生産、紙加工、販売、輸送まで、全てがこのまちの会社でできます。うちは、紙製品が完成するまでの一つの工程である「箔押し」を専門でやっています。市内にはそういう会社がいくつもあって、製品はいろんな会社を巡りながら完成していきます。



いろんな人の協力で仕事ができていると話す石村さん

会社同士のつながりも強くて、「こんな商品を作りたいんだだけ

営業するときに「日本一の紙のまちで作っています」と言えるのは、凄いアドバンテージなんです。「日本一」は、このまちで生まれる商品の付加価値を高めてくれるブランドです。
田原 私は、書道パフォーマンズ甲子園が好きで、四国中央市の会社に就職しました。書道パフォーマンズはとても魅力のあるコンテンツです。もっと羽ばたいてもらって、私のような人が増えたらいいと思います。そしていつかは、登録無形文化財に登録されることを夢見ています。



親子で書道 P 甲子園ファンという田原さん。母は大会ボランティアの経験あり

新口 私はやっぱり、仲間が欲しいです。
全員 (笑)
上杉 ぜひこの企画を続けて、紙ンデレラを増やしましょう。それでは12時がまいましたので、今回はここで終わらせていただきます。
全員 (笑)。ありがとうございます。